

平成 21 年度第 2 回政策評価委員会 摘録

平成 21 年 7 月 24 日（金）
午後 3 時から午後 5 時まで
第 3 庁舎第 3 会議室

議事 1 平成 20 年度施策評価の検証結果について

事務局から「平成 20 年度施策評価の検証結果（案）」について説明

[説明の骨子]

「良」、「可」と判定されたものが延べ 1,177 件、構成比で 89.2% あったことから「おおむね適正」とする一方で、「要改善」と判定されたものが延べ 143 件、構成比で 10.8% あったことから改善意見を付している。

前回の委員会における各委員の意見を反映させた箇所は次のとおり。

「検証項目別・チェックポイント別の意見」について、チェックポイントの主な改善意見の 3 つ目に、「参考指標の設定の考え方などをもう少し補足して欲しい」という意見を追加

「総括的な意見」について、項番 4 として「全体として分かりやすくなった」という意見を追加。項番 5 として「昨年度に比べ、良くなった箇所を他の事業局へもうまく伝えて欲しい」という意見を追加。項番 6 として「ミニマムレベルで水準に達しているものは多くなったので、今後は「良」の数を増やすように取り組んで欲しい」という意見を追加。項番 7 として、「アウトプットだけでなくアウトカム的な説明にも取り組んで欲しい」という意見を追加

提言 1 の 2 段落目の 2～3 行目に「改善意見だけでなく、昨年度に比べて良くなった点も情報共有して欲しい」という趣旨の意見を追加

提言 4 の最後の段落に「アウトカム（実施した結果、どうなったか）をより意識した評価に取り組んで欲しい」という趣旨の意見を追加

新たに提言 5 を設けて、「職員アンケート等を実施して欲しい」という意見を追加

委員長 御意見等があれば、お願いしたい。

副委員長 平成 20 年度施策評価の検証結果（案）の 12 ページの 3 段落目に「今後もこれまでの取組を継承・発展させながら」とあるが、今後も当委員会はメタ評価（市の評価内容の評価）を行っていくということでしょうか。

事務局 これまでは重点戦略プランに関連する 107 の施策課題に限定して検証をしていただいていたが、今回の検証からは 2 か年をかけて、264 の全施策課題を半分ずつ検証していただくこととした。来年度は残りの半分ということになるので、基本的には今回と同じ手法で実施していただくことになると考えてい

る。今回、実施した試行的な検証については、各委員間で結果にかなりバラツキがあったので、課題等を整理しながら、どこまで、どういう形でやることができるかということになると思う。

委員長 他都市で行っている例もあるが、事業や施策を直接評価するということは難しいと思う。264施策課題のうちの132施策課題の積み残しもあるので、継続性は必要と考える。市の行った1次評価に対する2次評価という点は変わらない。3期の委員会も基本は2期の委員会を踏襲しつつ、新しいものを取り入れていくということになるのではないか。

事務局 3期の委員会も、264施策課題の残りの部分を検証していただくことになるので、これまで同様、市の評価内容が市民の目線に立って行われているか、説明責任は果たされているかという視点で行っていただくことは必要と考えている。

委員 提言1について、分かりやすく、加筆できないか。提言1の内容として、評価票として好事例が増えてきた。課題がある課には、これを見て改善に取り組んで欲しい。その辺をもう少し明確にして欲しい。

委員長 教訓を分かち合うということだと思う。

委員 改善を指摘された課は、こうした好事例を参考にしながら、評価票の改善に取り組んでいくというような文章を入れていただければと思う。

委員長 御意見、趣旨を反映させるということで良いか。

一同 異議なし。

委員 提言3の「各所管課が作成した評価票を取りまとめる課において、チェックするしくみ」について、具体的には、どのようなしくみで行われているか。

事務局 まず、評価票を作成する課で、管理職が記載内容を確認しているが、さらに各事業局の企画課において、局内の各課で作成した評価票を横並びでチェックすることとなっている。提言3を踏まえて、このチェックする者に対して、今回、政策評価委員が検証に当たって使用した『検証マニュアル』を活用して、評価委員、市民の目線で確認してもらうことで、このチェックするしくみを強

化できればと考えている。

副委員長 今回の検証を行っていて、昨年に比べて、格段に良くなっていると感じた。良く書けているものについて、何かインセンティブを与えるということとはできないのか。

事務局 現状、直接、インセンティブと言えるものはないが、例えば、実現できるかどうかは議論があるが、アイデアとしては、表彰制度のようなものも考えられる。また、現実的な対応としては、今回の検証では、好事例についてもいろいろ指摘いただいているので、今後、そうした好事例の一覧のようなものを作成して、庁内に周知するという事も考えたい。

委員長 アナウンス効果が、ある意味でインセンティブになるのではないかと思う。

議事 2 政策評価委員会の提言を踏まえた取組について

委員長 御意見、御質問等があれば、お願いしたい。

委員 今後、委員会の意見を取り入れて、事務局で、きちんと対応していただけることが良く理解できた。前回の委員会でも議論になったが、評価票によっては、2人の委員が正反対のことを言っていたり、委員会の改善意見を取り入れにくいというケースもあると思うが、こうした点に関して、事業局の対応はどうか。事業局の考えを知りたい。

事務局 委員会からいただいた改善意見は、9月から10月にかけて、事務局が個々に事業局に対して内容を説明し、事業局の考え方や対応の方向性について指導・整理をお願いしていく。さらに12月から1月にかけて、事業局として整理した対応の方向性についてヒアリングを行い、委員会の改善意見に沿った対応ができないといった方向性が示された場合、内容を吟味して問題あると考えれば、指導・調整したいと考えている。その結果を来年3月になると思うが、委員会に報告したい。事業局との間では、こうした指導・調整の中で、評価の取組や委員会の指摘についても忌憚のない意見交換をしたいと考えている。その内容も整理ができれば、委員会に報告したい。2人の委員で異なった意見が出ていることについては、見方が違えば、当然、そういうこともあり得るので、

市としては真摯に受け止めて、改善の取組に反映させていくべきと考えている。

委員長 各委員でバックボーンも違うので、異なる意見というものも当然出てくる。そういった場合であっても、スタンダードな部分は、そろえていくということだと思う。

議事3 事務事業総点検及び施策評価に関する職員アンケートについて

委員長 御意見、御質問等があれば、お願いしたい。

委員長 程度を把握するために、事務局の説明にあたったように、今回のアンケートでは、5段階の区分で実施できればと思う。比較可能なものということ言えば、前回のアンケートと設問はある程度同じにして継続性を持たせることも必要と考える。

副委員長 前回のアンケート項目で、例えば、記述内容について「理解できる市民は少数だと思う」、政策評価委員会の審議結果について「大いに納得できない」という肢があるが、こうしたものについては、その理由も聞いてみたい。

事務局 アンケートの項目については、今後、委員長とも調整させていただきながら、11月の委員会で最終的な案を提案させていただきたい。その際に改めて御意見を頂戴したいと考えているが、それまでの間でも何か御意見があれば、是非、お願いしたい。

議事4 その他（今後のスケジュール）について

委員長 他に意見がなければ、質疑は以上としたいが、いかがか。

一同 異議なし。

委員長 これで議事は終わりにしたいが、今回で第2期委員が一同に会するのも最後になると思う。この間を振り返って、各委員から一言ずつ、お願いしたい。

委員 評価票を読ませてもらって、市がいろいろ頑張って取り組んでいることが良く分かった。

委員 本委員会が目的としている市民の目線に立った分かりやすい評価については、かなり進んできたと感じている。今後は、成果を高めるための自己点検として活用していただければと思う。

副委員長 最初に比べると、格段に分かりやすくなった。市の方々の評価の取組の大変さも実感した。私が国に勤めていた頃と比べると、アカウントビリティも大きく進んでいる。

委員長 少しずつだが、市の評価が良くなっていることを実感できた。一方で、評価の作業の大変さというものも感じている。

委員 1件1件の検証作業は、大変厳しいものがあった。とても勉強になった。

委員 評価委員会という名称は、むしろ検証委員会とした方が良いと思った。川崎に長く住んでいるが、住民もいろいろいて、市民の目線で評価、検証するということが非常に難しく感じた。

委員長 他になければ、以上としたいが、いかがか。

一同 異議なし。

以上